

季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

〈第四六七号〉

小満 しょうまん

五月二十一日

## 伊勢市歴史博物館オーブン

五月下旬、暦は草木が茂ってあたりに満ち始めるという「小満」を迎えます。  
内宮前も周囲の神路山の若葉がまばゆいばかりです。

小満や二雨ごとに森ふとる

山下静湖

まさしく一降りごとに若葉がすくすく育つ季節です。

伊勢では、式年遷宮に向けてのお木曳が始まりました。外宮にヒノキ材の御木を曳き込む陸曳で、宮川の岸辺から外宮の北御門口までのおよそ二キロを特別な二輪車に白綱二本を付けた奉曳車に御木を積んで曳いていきます。御木は奉曳団によって、一本から三本までそれぞれ。揃いの法被姿の人々が木遣り歌やエンヤーエンヤーの掛け声で賑やかに曳きます。金曜日は全国からの崇敬者による特別神領民が、土日曜は地元の奉曳団が行います。

このお木曳行事に合わせて伊勢市歴史博物館がオープンしました。

伊勢の文化や歴史を紹介する伊勢市歴史博物館は、外宮前のいせ市民活動センター2階に。常設展示は、伊勢市の地形や自然から始まり、歴史やお伊勢参り、伊勢神宮の鳥居前町として発展してきた伊勢のまちをビジュアル的にもわかりやすく紹介しています。伊勢市としても民俗資料館が閉館してから十五年を経て誕生した、待望の博物館になります。なんとといっても本物の奉曳車の展示は迫力満点。また、お木曳の詳しい説明もあり、今、行われているお木曳を深く知ることができるのも魅力です。

企画展示室では第一回特別展「お木曳をまとう」を開催。お木曳に着用する各奉曳団の法被がずらりと並べられています。法被は、今回伊勢市内に結成された奉曳団七十二のうち、4期に分けて展示。私が訪ねたときは、川曳を行う五十鈴川流域の法被が並べられていました。奉曳団の法被を着ていくと入場無料に。九月六日まで。

文 千種清美



# おかげの里便り

## おかげ横丁

### ○ 夏まちまつり

「夏の楽しみ、夏までまつな！」を合言葉に本格的な夏の到来より一足早く感じていただけます。その昔、町のあちらこちらに登場した涼しげな物売りや見世物、そして大道芸などで梅雨の晴れ間の楽しいひと時をお楽しみください。

と き／6月5日(金)～7日(日) 10:00～17:30 ※催しにより異なる

ところ／おかげ横丁一帯

### ● 懐かしの紙芝居&大道芸

昔懐かしの紙芝居や、バナナのたたき売りなどの口上芸、息をのむようなジャグリング、パントマイムなど、全国各地で活動する大道芸人たちがおかげ横丁を盛り上げます。

と き／6月6日(土)、7日(日)

ところ／おかげ横丁内「太鼓櫓」、かみしばい広場

### ● 夏の風物屋台

夏支度の屋台(手ぬぐい、風鈴、蚊やりなど)、メダカすくい、スーパーボールすくい、ヨーヨー釣り、射的、スマートボールほか、このお祭りだけの“夏の風物詩”をお楽しみください。

と き／6月5日(金)～7日(日)

ところ／おかげ横丁一帯

### ● 茅の輪くぐり

茅堂(ちがや)で作られた直径2mほどの輪をくぐれば、無病息災のまじないになるといいます。本来は神社において6月30日に行われる風習ですが、夏をちょっぴり先取りして行います。

と き／6月5日(金)～7日(日) 10:00～17:30

ところ／おかげ横丁入口常夜燈付近

お問い合わせ/おかげ横丁総合案内「おみやげや」電話0596-23-8838

## 五十鈴塾

### ○ 五十鈴塾だより「小満～棚田～」

田植え後の田んぼで小さな苗が風になびく様はこれぞ日本の原風景といえますが、平野で稲作ができるようになったのは、灌漑技術が発達した江戸時代以降だったようです。

棚田はその美しい風景が感動を呼びますが作る方は大変です。

しかし手作業が中心であった棚田は戦後放置され荒れていくばかり、昭和中期ごろから外国人や文化人を中心として見直され始め、政府も棚田地域振興法を策定し支援しています。

平成11年には「日本の棚田百選」に全国から134が選ばれ、三重でも熊野市の丸山千枚田、松阪市深野のだんだん田、亀山市の坂本の3つが入っています。丸山千枚田は1340枚もあり、熊野の山々を含んだ風景は多くの人を引き付け、神話の世界では稲は天照大御神が民の食料にするようにと孫の瓊瓊杵尊に託されたとき、それゆえに伊勢神宮のお祭りは稲作が中心なのです。

## 五十鈴茶屋

### ○ 五十鈴茶屋節気菓子

ばな  
どんど花

斎宮跡のある明和町には花菖蒲の原種、ノハナショウブが群生しています。「どんど」と呼ばれる取水口付近にたくさん咲いていたことから「どんど花」の愛称で親しまれています。濃紫色の美しい花を、三色の練り切りで表現しました。

いせなでしこ  
伊勢撫子

またの名を「御所撫子」とも呼ばれ、その昔、斎王となられた皇女が遠く都を懐かしみ御所から移し植えたといわれています。薄紅色の羊羹をきんとんに仕立て、今が盛りと咲く、優雅な伊勢撫子に見立てました。

あお  
青  
うめ  
梅

雨の恵みを受け、ここ伊勢の地でも青梅が目にも清々しく、実りの時を迎えようとしています。刻み梅入りの白餡を、外部で包みました。爽やかな青梅の香りが嬉しい、五月雨の便りです。